教科等研究会（小・中学校特別支援教育Ⅱ（自閉症・情緒障がい）部会）

令和４年度　研究活動のまとめ

１　研究テーマ

子どもの姿から出発する『分かる・できる』『楽しい』授業づくり
～一人ひとりの教育的ニーズに応じた授業づくりの工夫～

２　研究経過

	期　　日	授業者　内容等	場　　所
第１回	６月６日（月）	年間計画 研究テーマの確認 活動計画（参加者４１名）	七滝中央小学校
第２回	８月３日（水）	講話『教育的配慮が必要な児童生徒へのかかわりについて』　松橋支援学校　指導教諭　井上　礼治　先生 ※ＺＯＯＭにて開催　（参加者３９名）	乙女小学校
第３回	１１月１０日(木)	研究授業の指導案検討（授業者　池上先生・三嶋先生） 実践の紹介（指導案・教具・教材等）（参加者３４名）	七滝中央小学校
第４回	１月２６日(木)	自立活動 『学び祭り』を開こう（いろんなゲームを作って遊ぼう） 授業者　池上　幸　先生　・　三嶋　和代先生 （参加者４１名）	飯野小学校

３　研究の概要

(1) 研究の内容

①研究テーマについて

特別支援教育部会Ⅱでは、昨年度と同じく「子どもの姿から出発する『分かる・できる』『楽しい』授業づくり～一人ひとりの教育的ニーズに応じた授業づくりの工夫～」というテーマで研究を進めてきた。

特別支援教育の完全実施から１７年目を迎え、児童・生徒の教育的ニーズはますます多様化している。子どものありのままの姿から、教材・教具や支援方法を工夫して「分かる・できる」「楽しい」授業づくりをしていくことこそ特別支援教育の根幹であると考える。また、学齢期の今、授業づくりを工夫し、一人ひとりの実態や教育的ニーズに応じた支援方法を模索していくことが児童・生徒の将来の自立へ向けての重要な第一歩となると考える。

そこで、令和４年度においても、昨年度同様、全体研究テーマの一部を部会の研究テーマとし、サブテーマを「一人ひとりの教育的ニーズに応じた授業づくりの工夫」として、子どもたちの実態をどのように捉え、そこからどのように授業をつくり上げていくかということに視点を当てて研究を進めていくこととした。

今年度の部会員は４５名。本年初めて特別支援学級の担任をするという先生方も多い中、できるだけ会員のニーズに応えた研究会にするべく、研究会の充実・深化を図った。同時に、協議や情報交換の時間を多く確保するなどして、それぞれの授業実践や日常の取り組み等を互いに紹介する機会を多く持つこととした。

②研究の実際

研究授業に向けた指導案検討会と研究授業（ビデオ視聴）及び授業研究会を１回ずつ実施し、夏季休業中の１回については、半日研修として講師を招聘しての研修を実施した。

ア　第３回　研究授業の指導案検討と実践の紹介

飯野小学校　　教諭　池上　幸　　講師　三嶋　和代

指導案検討会では、指導案の書き方についての質問や意見、また、構想案についての質問も多く出された。児童生徒一人一人の実態に応じた細かな支援が見える指導案を心がけていく必要があるとの多くの意見を先生方からいただき、再度指導案を書いて頂くこととなった。

イ　第４回　研究授業及び授業研究会

飯野小学校　　教諭　池上　幸　　講師　三嶋　和代

（概要については、「４　実践事例」にて紹介）

自閉症・情緒障がい学級小学２・３・４・６年生７名に対しての自立活動「『学び祭り』を開こう」の実践。学習する様子を事前にＤＶＤに納め、その映像を全員で視聴しながらの授業研究会となった。授業研究会では、児童生徒にコミュニケーション力をつけるための効果的な指導のあり方や教材教具の工夫について小グループで話し合った。上益城地域療育センターの栗原秀子先生からも助言を頂き研究会が深まった。

ウ　第２回　半日研修　講師招聘による講話（ＺＯＯＭにて）

今年度は、コロナ感染拡大防止のため例年行っていた施設見学ができなかったが、井上礼治指導教諭（熊本県立松橋支援学校）を招聘し、『教育的配慮が必要な児童生徒へのかかわりについて』と題して、自閉症スペクトラムの方から学ばれた人間関係の取り方について講話をして頂いた。

夏休みの研修であったので、各自研修の中身を自分が担任している児童・生徒と重ね合わせ２学期からの実践へとつなげることができた。

(2) 成果と課題

○町単位で授業研究会を受け持ち、司会、記録なども分担して授業者を支えるように組織化することで授業内容に深まりが見られ会員一人ひとりに力をつけることができた。

○研究協議や情報交換の時間では、具体的な実践例を出し合うことにより児童生徒の実態に応じた様々な支援方法について具体的に話し合うことができた。経験豊富な先生方に悩みを相談できる場としたことで、活発な話し合いができた。

○今年度も講師をお願いしたり、授業研の助言をお願いしたりしたことで、より専門的な立場からのアドバイスをいただくことができた。

○松橋支援学校の井上礼治指導教諭に講話をしていただき、教育的配慮が必要な児童生徒へのかかわりについて学ぶことができた。自閉症スペクトラムの方の事例から、こちらのかかわり方がいかに重要であるかを知ることができた。

○夏休みを利用した半日研修は、会員にも大変好評であった。

○授業研究会にＤＶＤ視聴での授業参観を取り入れたが、会員の声としてやはり生の授業を見たいという声もある。児童生徒の実態や感染症拡大防止の方面からも考慮しながら考えていきたい。

○担任している児童生徒の状況から学校を離れることが難しく､研究会への参加が難しい会員がいる。

○テーマをもとに、それぞれの会員が児童・生徒の実態とニーズをもとに今つけたい力を考えた授業のあり方や支援方法について、学ぶことができた。

４　実践事例

(1) 授業の概要

飯野小学校自閉症・情緒障がい学級小学２・３・４・６年生７名に対しての自立活動「『学び祭り』を開こう」の実践である。巧緻性の向上を目指したり、他者とよりよく関わる力を高める学習を行ったりすることで、本児が日常生活においてすすんでいろいろな人と関わろうとすることが増えていくことを目標とした実践である。

《授業の視点》

①教材教具をどのように工夫すればよいか。

②児童に自信を持たせるために、指導方法をどうしたらよいか。

《授業者自評》

（池上先生）

・自立活動とは、どんなことをするのだろうという所から始まった。

・子ども達の自立に向けた学び（コミュニケーションの向上・手先の動きの調節）を目指してきた。

・子ども達の好きな物作り・ごっこ遊びからできた授業である。何度も繰り返すうち、楽しくできるようになってきた。繰り返すことは、大事だと感じた。

（三嶋先生）

・個性を活かして、学びを楽しく高めていく。それを目指して、考えていった授業である。

・家でも、たくさんの魚（タブレットで調べた魚）を作って、得意げに持ってくる。自分をアピールできる場にもなった。

・ぱっちんガエルに取り組んだ児童を通して、生活の中で学んだものをたくさん作って、お店を開

くことで、主役になることができた喜びを、感じることができた。
・力を合わせて楽しんでいこうという雰囲気に、けんかがなくなった。
《協議より》
・コミュニケーションの面で、どんどん会話ができるようになっているが、その手立ては？たくさんの『会話お助けカード』を作ろうと思ったが、作ったのは「いらっしゃいませ」「ありがとうございました」の２枚だけ。表情カードは、作らなかった。代わりに、「よーく顔を見てごらん」という声かけを行った。また、コミュニケーションが取れるようになった理由は、活動を繰り返し行ったことだと思う。
・人との関わりの楽しさから、充実感や人から認められたという自信につながっていると思う。子ども達の成長を感じる。自立活動をイベントとして取り組んであるが、子ども達の困り感を改善するためにどんなことをやっているのか？実態・特性は、一人一人違うので個々でやっていく。
・交流学級との関係。生活の中で、学習面で、いろいろなことが起こってくるが、どのように学習を進められているか？日常の中でのトラブルは、その都度話し合い、学びの時間を設けた。コミュニケーションのトラブルが多かったので、ソーシャルスキルの学びを行った。
・保護者との関係は？保護者も様々。児童の中には、ずっと交流学級の児童もいる。思いを通信等で伝えていくことで、反応が良くなってきている。あきらめず交流を求めていくことが大事。連絡帳も大事にしている。
《まとめ　上益城地域療育センター　栗原　秀子先生》
・身を削り心を削りながら、指導をされていると思う。
・繰り返し授業をされたことが良かった。見通しが持て動きがスムーズになり、喜びにつながった。
・自閉症やADHD等、感情コントロールが難しい子ども達にとって一番大切なことは、現状を把握してアセスメントする。どういう手立てがいいのかを、常に考えていくこと。
・物に当たったりする子どもには、すぐ目が向く。しかし、内向きに目が向く子どももおり、困り感を外に出すことができない。１週間に１回でいいから、話を聞いて、考えて、アドバイスをすることで、子ども達は力を得ていくのではないか。
・放課後デイサービスで、大切にしていること。
①生活スキルの向上（茶碗を洗う・洗濯物を片付ける・たたむ等）
②感情コントロール
③ソーシャルスキルの向上
④余暇の過ごし方
この４点が、就労に結びついていけばと思う。
また、どの子どもにも楽しみがあって欲しいと思う。

(2) 学習指導案

自立活動　「『学び祭り』を開こう（いろんなゲームを作って遊ぼう）」

池上　幸先生　　三嶋　和代先生(飯野小学校)

①　題材について

ア　題材について

本題材では主として「自立活動」の区分である３「人間関係の形成」を中心に取り扱うが、区分３の項目（１）「他者との関わりの基礎に関すること」と、区分２「心理的安定」項目（２）状況の理解と変化への対応に関すること、区分６「コミュニケーション」項目（２）「言語の受容と表出に関すること」を関連付けて指導内容を設定する。

区分３「人間関係の形成」項目（１）「他者との関わりの基礎に関すること」では、学習指導要領解説の中で、「人に対する基本的な信頼感をもち、他者からの働きかけを受け止め、それに応ずることができるようにすることを意味している」とある。児童の実態から、自分の思いがなかなか伝えることができない、また、伝わらないとイライラするという課題があるので、会話のマニュアルを示したり音声以外の方法での伝達方法（カード等）を使うことによって思いの伝え方を示したりするなど、工夫を凝らし安心して会話ができるようにしたい。

また、思いを文章で伝えることができるように、やりとりの方法を大きく変えずに繰り返し指導するなどして、やりとりの方法が定着するようにしたい。

本題材では、子ども達が特技を生かして自分たちで手作りしたゲームを使ってお互いに遊び合ったり会話をしたりすることで、日常生活の様々な場面で必要な他者との関わりの改善につながり、一人でも多くの人と積極的に接する機会が増えていくのではないかと考える。また、単独でのゲーム遊びや単なる作業の繰り返しとならないように、子ども達が興味や関心を持てるゲーム

（内容や課題）となるよう工夫し、意欲的に関わったり取り組んだりできるようにしたい。

イ　本題材の支援にあたっては、次の点に留意したい。

・興味や特技、発想を生かしたゲームを、できるだけ子ども達が手作りすることで、それぞれの自己肯定感を高める。
・子ども達それぞれが、ゲームを手作りすることやゲームをそれぞれに遊び方や操作の違いを持たせることで、巧緻性を高めるようにする。
・意欲的に取り組むことができるよう、子ども達の興味関心があるキャラクターやもの等をゲーム内や環境の随所に取り入れる。
・『学び祭り』という場づくりをすることで、子ども達がお店屋さんやお客さんになり、主体的に活動に参加できるようにする。
・困ったときに、ヒントとなるような会話のカード（会話お助けカード）を準備して、子ども達が他者と自ら会話しやすくする。
・楽しく学習することができるよう、子ども達とやりとりしながら教師も一緒に参加する。
・見通しを持って活動に取り組むことができるように、子ども達個々の動きを『見える化』する。
・集中して学習に取り組むことができるように,時間制限をしたりゲームに副賞を付けたりする。
・ゲームをクリアしたときには、みんなで喜び,頑張っているときには励ましたりして、楽しく活動できるようにする。

②　題材の目標

・会話等を通して、自分の作ったゲームで友達を遊ばせることができる。
・会話等を通して、友達の作ったゲームをすすんで楽しむことができる。

③　本時の展開

（2）本時の展開

時間	児童の活動	主な発問（発）、指導・支援上の留意点（・）							準備物等
		OH さん（2年生）	TH さん（3年生）	TS さん（3年生）	IR さん（4年生）	TR さん（4年生）	TR さん（4年生）	MT さん（6年生）	
1分	1　始めのあいさつをする。	**発「始めのあいさつをしましょう。」** ・号令は学年の上の児童を指名する。・あいさつができたらほめて自己肯定感を高める。							
4分	2　「学び祭り」のめあて、学習内容を確認する。	**発「今日のめあてはなんでしょう。」** ・全体のめあてと個々のめあてを板書し、声を出して読ませて確認する。・できたらほめる。							・めあての板書、個人のホワイトボード（めあて提示用） ・ゲームの写真
35分	めあて　会話をしながらゲームを楽しもう。	会話をして、楽しく活動する。	なかよく会話をして、楽しく活動する。	なかよく会話をして、楽しく活動する。	相手のいいところを見つけながら、楽しく活動する。	相手のいいところを見つけながら、楽しく活動する。	会話をして、楽しく活動する。	順じゅんを数えながら、楽しく活動する。	
		発「めあてをまもって「学び祭り」ができるかな！」							
5分	3　「学び祭り」をする。 ・児童それぞれが「お店屋さん」「お客さん」となり、3つの活動をする。 ・ゲーム1つにつき、シールを1枚もらい、シールが3つたまるとクレーンゲームが1回できる。 ・お店屋さんをする児童は最初に決めておき、お客さんがいない間はゲームができることにする。	・客→客→店と動く。 ・会話お助けカードや教師の口頭で、会話に困ったときには支援をする。 ・本児の好きなキャラクター等提示たりして意欲が持続するよう支援する。 できたらほめる。	・客→客→店と動く。 ・プラスの言葉を使って会話ができたらほめる。 ・相手にとってうれしい言葉等をカードに書き、必要に応じて見せるなどして支援する。 ・できあらほめる。	・客→客→店と動く。 ・集中が切れないように、めあてにもどったり本児の好きなものなど提示し、予定通りできたらほめる。 ・相手にとってうれしい言葉等をカードに書き、必要に応じて見せるなどして支援する。 ・できたらほめる。	・店→客→客と動く。 ・プラスの言葉を使って会話ができたらほめる。 ・力の加減等、アドバイスをしながら考えてゲームに臨むよう超えかけをする。 ・できたらほめる。	・店→客→客と動く。 ・周りの必要に応じて客から店となれるようやる気をもたせる声かけをする。 ・客となったときに、集中が続かない時があるので、集中力が持続するように前向きな声かけをする。 ・できたらほめる。	・店→客→客と動く。 ・自分の店に固執してしまうことのないよう、励ましや声かけをする。 ・会話ができたらほめる。 ・時間の配分を前もって決めておき、時間を知らせるようにして見通しをもって活動させる。 できたらほめる。	・店→客→客と動く。 ・周りの必要に応じて客から店となれるようやる気をもたせる声かけをする。 ・めあてにそった行動ができたらほめる。	・それぞれのゲーム ・シール ・シール台紙 ・会話お助けカード ・表情カード ・うれしい言葉カード等
		・3回活動し（客と店）、シールを3つためてクレーンゲームを1回する。→残りの時間があれば好きなゲームをしてよいことにする（クレーンゲームは1回しかしない）。							
	4　ふり返りをする。	**発「めあては達成できたかな？振り返りで感想を発表しましょう。」** ・めあての振り返りや楽しかったことなど、感想発表を上学年から促し、教師が補足しながら言うことができたらはなまるをボードにつける。最後に次事（続きの日時等）の予告をして終わる。							・評価マーク